

東京六大学野球における早稲田大学野球部の打撃成績の特徴 Batting average of Waseda baseball club in the Tokyo Big6 Baseball League

1K07B190-1

指導教員 主査 葛西 順一 先生

松永 弘樹

副査 彼末 一之 先生

【目的】

本論文では、著者の六大学野球における4年間の打撃成績および試合におけるカウント別およびコース別の打撃成績について、これまでの六大学野球投手との比較を行い、早稲田大学の各打者および著者の特徴を明らかにすることを目的とした。得られた結果から、早稲田大学野球部における打撃の課題や改善点について考察する。

【方法】

本研究は著者（打者 M とする）が東京六大学野球リーグに所属し試合出場した2007年春季リーグ戦から2010年の秋季リーグ戦までの計10シーズンを対象とした。過去の打者の打撃成績についても同様に、過去の2000年から2010年の間に六大学野球において打席に立った打者を対象とした。4年間の成績および過去の打者の成績については六大学野球HPに掲載されているデータを活用した。

試合における打撃成績については2009年秋季リーグにおける早稲田大学の試合で打席に立った打者の打撃成績を対象とした。試合における配球および打撃成績については、データの分析および入力にデータスタジオ株式会社製のScore Maker2を用いた。データの記録は熟練した数名の検者が行った。ストライクゾーンを9つの長方形に等分割しデータを入力した。ボールゾーンを高・低・内・外の4つに区別してデータを入力した。

球種は、ストライク、ボール、球種を4種類（ストレート、カーブ・スライダー、シュート・シンカ、チェンジアップ（CH）・フォーク）とした。

打撃の各項目（安打、凡打、空振り、見逃し、ファウルボール、アウト、三振）を記録した。

【結果および考察】

●六大学全選手の傾向では、初球の打率が非常に高かったが、早稲田大学野球の初球の打率は全体から見ても低いことから、打撃練習の時から初球を意識して練習に取り組むべきであり、打席でも初球を積極的に狙っていかなくてはならない。

●早稲田大学野球部は、高めのボールは空振りやファウルが少なく安打が出やすい。一方、投手は低めのボールを多投してくるが、高めのボールも少なくないので、試合では、これからも継続して高めを狙っていくべきである。厳しいボールをファウルする練習をするよりは、やや甘いボールをしっかりとらえる練習をし

たほうが効率がよい。

●六大学野球の打者の成績と、早稲田大学の成績には大きな差は見られないが、優勝しているチームを見ると、長打に關係する項目の成績の良いことが分かる。このことから、長打を打てるバッターが打線の中にとると、得点力が上がり、それが勝利につながるものと思われる。

●2003年ごろの4連覇を達成した時の早稲田は、ほかのシーズンと比べても群を抜いた成績を残しており、やはりチームの強さには、得点力が大きく関連していることが分かる。

●打者Mは、高めのボールを打つことの多い打者である。確かにデータから高めの方が打率がいいことが分かっているが、その他にも凡打になる確率が高いことがわかったので、ここを考慮しなくてはならない。

●打者Mは、アウトコースの見逃しが非常に多い。ここは自分の考え方とデータが一致した部分でもあるが、チームのための打撃という視点から考えると、この見逃しをもっと減らしていくよう心がけていかなくてはならない。

●打者Mは、ベース寄りに立っているにもかかわらず、インコースのボールを打ちにいつている。しかしながら、うまく打っているわけではない。したがって、バッターボックスの立ち位置も含めて、自分の打つコースやインコース、アウトコースのボールにどう対応していくかを、今後検討していく必要がある。

表1 早稲田大学野球部における10年間の打撃成績

年	季	安打数/打席数	長打率	出塁率	四死球/打席
2000	春季	0.230	0.307	0.312	0.119
2000	秋季	0.239	0.355	0.315	0.111
2001	春季	0.234	0.332	0.333	0.149
2001	秋季	0.227	0.309	0.293	0.092
2002	春季	0.259	0.395	0.336	0.116
2002	秋季	0.316	0.443	0.413	0.165
2003	春季	0.347	0.525	0.441	0.168
2003	秋季	0.288	0.428	0.421	0.231
2004	春季	0.254	0.352	0.333	0.118
2004	秋季	0.275	0.370	0.368	0.147
2005	春季	0.236	0.352	0.341	0.160
2005	秋季	0.253	0.332	0.351	0.151
2006	春季	0.294	0.378	0.388	0.153
2006	秋季	0.243	0.327	0.344	0.154
2007	春季	0.299	0.422	0.397	0.162
2007	秋季	0.278	0.397	0.365	0.137
2008	春季	0.260	0.361	0.367	0.170
2008	秋季	0.252	0.326	0.344	0.139
2009	春季	0.248	0.344	0.341	0.142
2009	秋季	0.267	0.322	0.345	0.118
2010	春季	0.236	0.306	0.325	0.132
2010	秋季	0.268	0.341	0.350	0.126
平均		0.263	0.363	0.355	0.142

※2007年春季から2010年秋季は著者が野球部に所属した期間（表ではグレーの部分）